



『 五郎衛門邸 (ごろうえもんてい) 』

姫路城の北東にこんな名前の町があります。これは中世の鋳物師(いもじ)、芥田(あくた)五郎衛門宗定(二代目)の屋敷跡なのです。代々、五郎衛門を襲名した芥田家は、兵庫県の加西市芥田(けた)に住んでいたため地名を付けて芥田(あくた)としました。初代、芥田五郎衛門勝義(勝久ともいう)は小寺則職に仕え武将として芥田城主でもあったと伝えられています。

鋳物師として姫路(野里)に住んだ一代目、芥田五郎衛門家久(いえひさ)は永禄11年(1568)、付近の市場の販売座席(売場)の権利を買い集めて播磨国中鋳物師惣官職(はりまこくちゅういもじそうかんしき)を与えられました。(※注記1)芥田家は領内の他の鋳物師・鍛冶屋をその支配下におきました。その特権は鋳物のみならず農具や塩などの物流・販売にも及びました。「当国寺社の鋳鐘は他の鋳物師へ鋳造を許さず、悉皆吾家の銘文印きる。また野里同職中より農具、塩・湯釜等の口銭銀請(こうせんぎんうけ)来り候」という文書を残しています。

鋳物師というよりもこれは播磨の国の、鉄(鋳鉄・鍛鉄)と銅と塩の販売権利を掌中にした総合商社だったので。配下には、田中家・小野家・尾上家などがありますが、塩については田中家が市川を遡り、生野峠まで鍋・釜と共に販売しました。

黒田官兵衛孝高が小寺家に仕え姫路の城代であった時期(1567年頃)、豊臣秀吉が姫路城を築城した1580年、芥田家は戦国武将達と親交を深めます。以後、武将達は金物が必要になると芥田家に発注しています。木下定家、黒田官兵衛らからの鋏・ツルハシ、鍋などの注文書が芥田家に残されています。

芥田家で最も有名なのは三代目、芥田五郎右衛門充商(家次)で脇大工として播磨の鋳物師達百数十人を同道し、方広寺の大梵鐘を鋳造しました。秀吉の命により鋳造された鐘はその文字『国家安康』を家康に因縁をつけられ大阪夏の陣のきっかけになりました。

この他にも姫路には金属加工と鋳物師に関わる町名が、鍛冶屋町・金谷町・福屋町・八木町・福本町・鍛冶屋裏町・鍵町などあります。ただし、鍵町には別の町名由来もあります。それは町が鍵状になっていたからというものです。

※注記1 家久が付近の市場の販売座席(売場)の権利を買い集めたことは、夢通信2月号 鋳物師町を参照してください。

参考資料

播磨国鋳物師考 一伝承の鞆一 竹内 貞
昭和55年7月 中央出版社

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/ryou@memenet.or.jp>



むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください!!